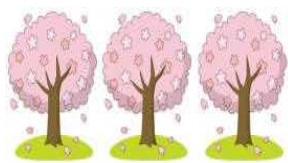


高取小だより

令和7年9月1日



三本桜

第18号

ふかく考える子 あたたかみのある子 がんばりのきく子
9月の目標：伝わるあいさつをしよう

再スタートです

9月は夏休み明けで、子どもたちが学校生活に再び慣れていく時期です。気候の変化や気温の差が激しくなるため、子どもたちの健康状態に特に注意を払っていく必要があります。高取小学校では、心と体の健康を支える活動として、毎朝の「健康チェック」を実施しています。ご家庭でもお子様がよく眠れているか、朝食をしっかり食べているかなど、見守っていただけますと幸いです。

さて、残暑厳しい日が続きますが、暦の上では秋です。秋はお子様一人一人が、新しいチャレンジや成長を遂げる季節です。学校という場で保護者の皆様との連携が何よりも大切です。お忙しい中、登校や宿題などへのご協力をいただき、ありがとうございます。短い時間でもお子様とお話されることで、心の安定にもつながりますので、引き続き温かいご支援をお願い申し上げます。

季節の変化を感じる中、環境の変化にも柔軟に対応しつつ、子どもたちの夢や希望が膨らむ教育を実施していきます。ご意見やご質問がございましたら、遠慮なく学校へお問い合わせください。皆様と一緒に素晴らしい学びの場を作っていけるよう尽力していきます。



【8月20日出校日の様子】

子どもたちの将来を見すえて

8月17日(日)中日新聞の朝刊に『米国の大卒「就職氷河期」 AIが新人の仕事代替』という記事が掲載されました。以下にその要約を示します。

米国では、大卒若者が「就職氷河期」のような状況に直面しており、特に経済成長を支えてきたIT業界で採用が冷え込んでいる。生成AIの発展により、新入社員が担う仕事がAIで代替可能となり、マイクロソフトやグーグルなどの一流企業を目指した若者たちは就職の道を閉ざされている。

大卒者の失業率はコロナ禍以降、労働人口全体より高くなり、2023年には22～27歳の大卒者の失業率が5.8%と全体の4.0%を1.8ポイント上回り、過去最大の差となった。特に「コンピューターサイエンス」や「コンピューター工学」専攻の若者の失業率は6.1%と7.5%に達し、「哲学」専攻（3.2%）よりも高い逆転現象が起きている。

この状況の主な要因には、生成AIによる新卒者業務の代替、企業の経済的不安による採用の慎重化（例えば トランプ政権の高関税政策による影響）が挙げられる。これにより、かつて「売り手市場」であったIT分野の学位の価値が低下していると考えられる。

AIに負けない子どもを育てるためには、

- ①クリティカル・シンキング（情報をただ受け取るだけでなく、批判的に分析する力）の強化
- ②創造性（常に新しいアイデアを生み出せる力）の育成
- ③コミュニケーション能力（人間関係を築く力や対話スキル）の強化
- ④デジタルリテラシー（AIやコンピューター技術を理解し、活用する能力）の向上
- ⑤倫理教育の深化（技術の使用における倫理的問題を理解し、責任ある行動をとる能力の向上）
- ⑥協調性とチームワークの促進（複雑な問題を解決するための協働力の育成）

といったことに取り組むことが重要と考えます。そうすることで、子どもたちはAIと協力し、さらに創造性を活かした職業や活動に従事できる人材へと成長できます。高取小学校では、これらの取り組みの具体を考えたり、特定の科目で具体的なカリキュラムを作成していきます。

人生百年時代と言われ、また、子どもたちは、今存在しない仕事に就かなければならないとも言われます。保護者の皆様、機会を見つけて、子どもたちに職業観、勤労観、人生観などについて話をしてやってください。よろしくお願いします。

